

環境影響評価集計表 環境影響に関する研究一覧

(対象年度:2021年度 調査実施年度:2022年度)

部局	No.	著書名、論文名、発表演題等	担当者	研究の概要
人文学部	1	著書『どうすればエネルギー転換はうまくいくのか』(新泉社)第4章「土地問題」としてのメガソーラー問題を担当。	茅野恒秀	エネルギー転換は誰のためになぜ必要で、どうすればうまくいくのか。再生可能エネルギーの導入に伴って引き起こされる、地域トラブルなどの「やっかいな問題」を社会的にどう解決していくべきなのか。現場での成功や失敗から学び、実践的に考える。
	2	学会発表「日本社会の「適応」可能性を問う諸視点」(環境3学会合同シンポジウム「気候変動適応策:わが国で直面する課題を克服するための研究の最前線」)	茅野恒秀	環境問題や災害に関する社会学的研究の経験から「気候変動適応」という問題状況を整理分析。気候変動対策を中心軸にした、全政策的見直しと展開とを地道に、着実に進めることの重要性を指摘。
	3	学会発表「グリーンインフラの環境社会学的分析視点:環境制御システム論の視点から」(第64回環境社会学会大会シンポジウム「グリーン化する社会の環境社会学:グリーンインフラとどう向き合うか?」)	茅野恒秀	環境政策史的な視点からグリーンインフラの広がりを俯瞰的に把握するとともに、環境制御システム論によってグリーンインフラを理解する枠組みを提起し、グリーンインフラを活かす社会的条件について考察。
経法学部	1	小賀野 晶一＝奥田 進一[編]『森林と法』(共著者13名)(2021年4月、成文堂)	小林 寛	森林と法について検討した本書のうち、小林寛は、第4章「適正管理」について、分収林制度を中心に法的な研究を行った。
	2	「海岸漂着物処理推進法の改正に関する考察」第71回日本海法学会(オンライン開催)2021年10月16日	小林 寛	美しく豊かな自然を保護するための海岸における良好な景観及び環境の保全に係る海岸漂着物等の処理等の推進に関する法律(海岸漂着物処理推進法)の2018年改正に関する考察を学会報告した。
	3	公益社団法人商事法務研究会(環境省請負調査)『令和3年度諸外国における環境法制に共通的に存在する基本問題の収集分析業務報告書(1)再生可能エネルギー導入に向けた海外の法的制度に関する調査』(2022年3月)	小林 寛	左記調査報告書のうち、小林寛は、オランダおよびデンマークにおける洋上風力発電に係る環境アセスメント制度について調査し報告書を作成した。
	4	「気候変動時代における実効的な流域治水と自治体の役割」『自治総研』519号	三好規正	河川流域の樹林地や農地などの生態系を自然災害に対する緩衝帯として活用することにより、災害リスクを低減させる治水対策と法制度のあり方について考察し、提言を行った。
理学部	1	Formation of amorphous and quasi-two-dimensional microcrystalline structures of CO2 in activated carbon pores at low temperatures / Carbon, 2022, 193, 88-97.	Ana Carolina Cons Bacilla, Ryusuke Futamura,	二酸化炭素の活性炭細孔中への取り込みに関する研究。細孔内の二酸化炭素が特殊な結晶構造を取ることを明らかとした。
全学教育機構	1	(論文)空からの視線,そして砂漠と自己の対話——ネイチャーライティングとして読む『人間の土地』——信州大学総合人間科学研究 第16号 pp.138-147,	松岡 幸司	サン＝テグジュペリの『人間の大地』をネイチャーライティングとして分析し、作者自身による自然との交感的体験の様相を明らかにした。
	2	Life strategies of hunter-gatherers: A comparative social history of the indigenous peoples of Borneo and Jomon-period Japan Journal of Borneo-Kalimantan,7(2):pp.28-39 2021(Dec. 30)	Kentaro Kanazawa	ボルネオの民と縄文の民は、ともに恵まれた自然環境において、低い人口密度で遊動的な生活様式を志向した。食料は基本的に自給自足であり、プナン人の場合は、サゴヤシという植物から、縄文人の場合は、木の実から植物質食料を確保してきた。
	3	書評:佐久間香子『ボルネオ—森と人の関係誌』(春風社) 東南アジア学会編『東南アジア—歴史と文化—』(50):pp.155-159 2021(May 31)	金沢謙太郎	掲題図書の書評を学会の依頼に基づき、執筆した。

環境影響評価集計表 環境影響に関する研究一覧

(対象年度:2021年度 調査実施年度:2022年度)

部局	No.	著書名、論文名、発表演題等	担当者	研究の概要
全学教育機構	4	報告:「お香はどこから来てどこへ行くのか」 『The Daily NNA: マレーシア版』知識探訪—多民族社会の横顔を読む(日本マレーシア学会協力).(7052);pp.14 2021(Sep. 28)	金沢謙太郎	掲題研究エッセイを学会の依頼に基づき、執筆した。
	5	「環境社会学の視点からみる世界史 —先住者の生活戦略から探る持続可能な社会」,『岩波講座 世界歴史 1: 世界史とは何か』, pp.227-246 岩波書店 2021(Oct. 05)	金沢謙太郎	かつて人と環境の関係がどういうものであったのか。そして、現在それがどういう状態におかれているのか。モノは本来どこから来てどこへ行くのか。私たちは、それらを見定める知恵や想像力を先住民たちの社会史からもっと学ぶ必要がある。
医学部	1	Hasegawa K, Toubou H, Tsukahara T, Nomiya T. Short-term associations of fine particulate matter (PM2.5) with all-cause hospital admissions and total charges in 12 Japanese cities. Int J Environ Res Public Health. 2021 Apr;18(8):4116. https://doi.org/10.3390/ijerph18084116 .	野見山哲生他	日本の12都市において、PM2.5濃度と全要因による入院件数、入院医療費および1人あたり入院医療費との間に有意な正の関連を認めた。
	2	Shibazaki T, Motoki N, Misawa Y, Ohira S, Inaba Y, Kanai M, Kurita H, Nakazawa Y, Tsukahara T, Nomiya T, the Japan Environment & Children's Study (JECS) Group. Association between pesticide usage during pregnancy and neonatal hyperbilirubinemia requiring treatment: The Japan Environment and Children's Study. Pediatr Res. 2021 May;89(6):1565-1570. https://doi.org/10.1038/s41390-020-1100-6 . Epub 2020 Aug.	野見山哲生他	妊娠中の屋内での殺虫スプレー剤使用や虫よけ剤の皮膚への塗布と児の新生児高ビリルビン血症の発症と関連があることが示された。
	3	Kurita H, Motoki N, Inaba Y, Shibazaki T, Misawa Y, Ohira S, Kanai M, Tsukahara T, Nomiya T & The Japan Environment & Children's Study (JECS) Group. Maternal Alcohol Consumption and Risk of Offspring with Congenital Malformation: The Japan Environment and Children's Study. Pediatr Res. 2021 Aug;90(2):479-486 https://doi.org/10.1038/s41390-020-01274-9 . Epub 2020 Nov.	野見山哲生他	妊娠中の飲酒と先天性形態異常(先天性心疾患、男児外性器異常、口唇口蓋裂など)の発生との間に有害な関連は指摘できなかった。
	4	元木倫子、島崎雅士、上條怜音、笹尾祐介、中込健人、中村真波、新田温生、白旭坤、星影彰太郎、松井寛郎、山口廉之助、吉田真介、長谷川航平、嘗房浩一、水木将、上條知子、塚原照臣、野見山哲生. 幼児の睡眠の問題と母親の睡眠行動・養育環境の関係. 信州公衆衛生雑誌. 2021年8月;15(2):45-54.	野見山哲生他	母親の睡眠行動や養育環境と幼児の睡眠の質との関連について調査し、兄弟の有無、母親の電子機器使用時間との関連が示唆された。

環境影響評価集計表 環境影響に関する研究一覧

(対象年度:2021年度 調査実施年度:2022年度)

部局	No.	著書名、論文名、発表演題等	担当者	研究の概要
	5	Takebayashi T, Taguri M, Odajima H, Hasegawa S, Asakura K, Milojevic A, Takeuchi A, Konno S, Morikawa M, Tsukahara T, Ueda K, Mukai Y, Minami M, Nishiwaki Y, Yoshimura T, Nishimura M, Nitta H. Exposure to PM2.5 and lung function growth in pre- and early adolescent schoolchildren. Ann Am Thorac Soc. 2021 Oct. https://doi.org/10.1513/AnnalsATS.202104-511OC . Online ahead of print.	野見山哲生他	微小粒子状物質(PM 2.5)濃度の小学生の肺機能発達への影響について、環境省におけるコホート調査の結果を報告した。
医学部	6	The Committee for Recommendation of Occupational Exposure Limits, Japan Society for Occupational Health. Araki A, Azuma K, Endo G, Endo Y, Fukushima T, Hara K, Harada K, Hori H, Horie S, Horiguchi H, Ichiba M, Ichihara G, Ishitake T, Ito A, Ito Y, Iwasawa S, Kakamu T, Kamijima M, Kanta K, Kawai T, Kawamoto T, Kishi R, Kumagai S, Matsumoto A, Miyagawa M, Miyauchi H, Morimoto Y, Nagano K, Naito H, Nakajima T, Nakano M, Nomiyama T, Okuda H, Okuda M, Omae K, Sato K, Sobue T, Suwazono Y, Takebayashi T, Takeshita T, Takeuchi A, Takeuchi A, Tanaka S, T suj M, Tsukahara T, Ueno S, Ueyama J,	野見山哲生他	2プロモプロパン、グリフォサート等の許容濃度、生物学的許容値等の勧告を日本産業衛生学会許容濃度委員会より行った。
	7	Motoki N, Inaba Y, Shibazaki T, Misawa Y, Ohira S, Kanai M, Kurita H, Tsukahara T, Nomiyama T. Insufficient gestational weight gain and infant neurodevelopment at 12 months of age: The Japan Environment and Children's Study. Eur J Pediatr. 2022 Mar;181 (3):921-931. https://doi.org/10.1007/s00431-021-04232-7 . Epub 2021 Oct.	野見山哲生他	妊婦の体重増加が不十分な場合、児の生後12か月での精神神経発達スクリーニング検査で異常となるリスクが高いことが示唆された。